

一般質問通告順序表

No.1 (令和6年3月4日)

番号	質問者	質問の相手	質問の要旨
1	田畑 和彦	市長 教育長	<p>1. 地震対策等の危機管理について</p> <p>(1) 地震はいつどこで起きるか不明。能登の地震を人ごととせず、万一の地震発生に備え被害を最小限にする「減災・防災対策」が重要である。市長はどのような思いで受け止めているか。</p> <p>(2) 被災者は水不足により衛生面の悪化、感染症拡大の状況下で生活を強いられている。水の確保は重要であり給水車を整備するなどしているが、更に対策が必要と考えるが如何か。</p> <p>(3) 家屋の倒壊は人的被害に繋がる。一般家屋の耐震化の状況を早急に調査し、対策を講じるべきと考えるが如何か。</p> <p>(4) 輪島市火災は空き家の放置が被害拡大した一因とも言われている。火災被害の極小化として空き家の解消も積極的に取り組むべきではないか。</p> <p>(5) 避難所生活は長期化し劣悪な環境の避難生活で災害関連死が多くなっている。避難所の環境整備を考え直すことも必要ではないか。</p> <p>(6) 羽田空港の事故は、避難訓練の重要性を実証した。訓練の重要性、実情に即した訓練を行うなど、見直しが必要ではないか。</p> <p>2. 多文化共生のまちづくりについて</p> <p>(1) 本市の特色・魅力の一つである「多文化共生のまちづくり」について、マニフェストにある外国人に選ばれるまちの進捗状況を伺う。</p> <p>(2) 日本語を学びに来ている留学生が多いのは、本市の「強み」である。市長が言われる「磨き」「尖らせる」最高の素材である。提案をどのように具体化しようとしているか。</p>
2	濱田 尚	市長	<p>1. 地震対策について</p> <p>能登半島地震がもたらした大きな被害は、市来断層帯などが存在する本市にとって教訓となった。</p> <p>(1) 地震を受けて、避難計画の再点検など、本市としていち早く取り掛かった事項、今行うべき行動について伺う。</p> <p>(2) 本市の建築物の耐震化はどうか。</p> <p>(3) 今後、自治体が行った被災地での支援活動の情報共有を行い、本市の災害対応に活かしていくことが重要と考えるがどうか。</p> <p>2. 行政運営について</p> <p>急激な人口減少に対応するため、広域的な行政運営や人材育成は必要と考える。</p> <p>(1) 廃棄物処分の取組やごみ処理施設について、今後の計画はどのようなになっているのか。</p> <p>(2) 消防の広域化をどう考えているか。</p> <p>(3) 幅広い視野を持った人材を育てるために、市職員の国の機関や近隣自治体などとの人事交流を、もっと積極的に行うべきではないか。</p>

3	東 育 代	市 長 教 育 長	<p>1. 大規模災害への備えについて</p> <p>鹿児島県周辺の活断層について、甑断層帯や市来断層帯の地震規模の推定M7超の可能性が指摘された。近年の災害規模の大型化により「災害への備え」は重要である。特に、昨今は地域密着型である消防団の重要性が再認識されている。</p> <p>(1) 消防団について</p> <p>①消防団が要員動員力や即時対応力を発揮するには、各地域の実情に応じた団員確保を行うべきであるが、団員不足や高齢化などの課題がある。団の統合などの対策を講じるべきと考えるが、市長の考えを伺う。</p> <p>②消防団の支援について、消防署や地域の後援会組織との日ごろからの連携・支援が重要である。現状と課題について伺う。</p> <p>③大規模地震や災害はいつ起こるかわからない。消防団員もどの様に行動すべきか苦慮されているのではないかと。大規模災害時の対応指針や行動マニュアルを早急に策定し、消防団との連携を図っていくべきではないかと。</p> <p>(2) 水源の確保について、大規模災害発生時には、水源や浄水場の冠水、道路の決壊、がけ崩れ、橋梁の流出などにより水道管が損壊し、給水が停止することになる。給水停止に備え、井戸（地下水）は新たな資源となる。現状を把握し、井戸の場所の確保と「井戸（水）マップ」を作成すべきではないかと。</p> <p>2. 歴史資料館の整備について</p> <p>串木野麓にある歴史資料等の保存については、歴史伝承会が担っている。また、個人でも沢山の貴重な資料を保存されているが、次の世代へ繋げていくのに苦慮されている。市も一緒になって考えるべきではないかと。</p>
4	田 中 和 矢	市 長	<p>1. 有事に市民をどのように守るのか</p> <p>能登半島地震を教訓にして「川内原発 20 年延長」をそのまま受け入れるのは非常に危険だと考える。国策だから仕方がないののだろうか。今からでも遅くはない。自然からの警告と受け取り、考え直すべきである。</p> <p>川内原発の近くには甑断層、甑海峡中央断層、吹上浜西方沖断層、市来断層、五反田川断層、熊本地震を引き起こした中央構造線断層の存在が知られている。能登も熊本も専門家によると地震発生の可能性は3%以下とされていたにも関わらず、このような悲惨な災害をもたらした。</p> <p>無数の土砂崩れ、多くの道路寸断、液状化現象等で壊滅的被害が発生した。避難は困難を極める。阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震を目の当たりにして、市長はどのようにして市民の生命、安全を守ろうと考えているのかを問う。</p> <p>2. 交通安全、渋滞緩和対策について</p> <p>西薩中核工業団地の企業進出により通行量が急激に増えている。串木野駅前交差点で大型車両が一度で曲がれず、渋滞が発生し危ない。国道3号線は国が、駅前から新港大橋間は県道で県が所管。市道ではないが、現地の円滑な車の流れと安全確保のための対応を求める声が地区住民からも多く聞かれる。</p> <p>(1) 横断歩道前の停止線を今より6メートルほど後退して引き直すことで、大型車両もスムーズに曲がれて渋滞解消できる。大規模な工事も不要であり、コストも大幅に抑えることができる。市からもこの実現に向け、関係先に積極的な交渉をしてもらいたいとどうか。</p> <p>(2) 騒音・振動対策の要望は抜本的には道路の強度補強工事も必要だが、取り急ぎの対応として、「制限速度の厳守」を西薩中核工業団地連絡協議会等に市から要請するのはいかがかと。</p> <p>(3) 大型スーパーから市来方面への車が渋滞する点につき、周辺道で「一方通行」の設置導入で渋滞を緩和できるのではないかと。警察や交通安全協会とも協議し、検討してみたらどうか。</p>

一般質問通告順序表

No.2 (令和6年3月5日)

番号	質問者	質問の相手	質問の要旨
5	吉留 良三	市長 教育長	<p>1. 農村の存続について</p> <p>(1) 食料・農業・農村基本法見直しの年で、生産資材の高騰や気候変動など「複合危機」下の食料安全保障が最大の課題と言われる。これまで「強い農業」を目指したはずだが、農畜産業は危機的である。中山間地の特徴である小規模農家・家族経営を大事にしてこなかったことが今日の食糧供給や地域コミュニティの危機を招いたと考えるが、市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 農業の持つ役割は、まさに公益事業だ。足元の資源を見直し、「地消地産・地域循環型経済・ローカルな自給圏構築」が進めるべき施策と考えるがいかがか。</p> <p>(3) 地域循環型経済の構築には、学校給食を核とする成功事例が多い。学校給食への地元産食材の本格導入を起爆剤にすべきと思うがいかがか。</p> <p>(4) 兼業は、日本農業の本質との指摘もある。食料・農業・農村基本法見直しでも中小規模の家族経営や「半農半X」など多様な人材を位置付ける方向とも言われるが、どう評価するか。</p> <p>(5) 「兼業、半農半X」の生業探しのヒントは地域の困りごとにあると言われるが、どのように考えるか。</p> <p>(6) 「特定地域づくり事業協同組合」を進めるべきだが、現状と課題は何か。</p> <p>(7) 「労働者協同組合」こそ地域の困りごとに関わり添った活動主体になる可能性が大であると思うが、どう評価するか。</p>
6	高木 章次	市長	<p>1. 川内原発について</p> <p>(1) マグニチュード7.6を観測した能登半島地震を目の当たりにして、本年2月7日に見直された「基準地震動」では小さいと考える。また、改めて、見直された基準地震動による耐震性の確認と安全対策工事が終わらないままでの延長運転を危惧しているが、市長の考えを伺う。</p> <p>(2) 熊本地震に続いての能登半島地震により、屋内退避等、県や市の原子力防災計画の実効性に極めて問題があることを再確認した。このまま川内原発の運転を続けることに強い不安を感じるが、市長の考えを伺う。</p> <p>2. 洋上風力について</p> <p>現在、洋上風力は着床式で検討しているようであるが、浮体式、沿岸から5km以上離れた地域を前提条件とした検討もすべきと思うが、市長の考えを伺う。</p>

7	松崎 幹夫	市長 教育長	<p>1. 海岸等の整備による地域活性化について</p> <p>(1) 市長は、本年1月4日の新春賀詞交歓会において、吹上浜フィールドホテルと市来海岸一帯の整備について発言されたが、どのような考えや計画があつての発言なのか。</p> <p>(2) 本市の魅力の一つである「海」については、漁港や新港以外はほとんど整備がされていない。海に目を向けて、様々な取組を行うことも地域活性化の一つと考える。特に羽島の白浜海岸付近は、温泉・海・山・畑と環境が整っており、整備しやすい環境にある。官民連携の地域活性化策の一つとして検討できないか伺う。</p> <p>2. スポーツイベントと推進体制について</p> <p>(1) 旧串木野市において始めたウォーキング大会は、当初年3回の開催で、合併後には市来地域を加え年4回開催していたが、現在では全く行われていない。市民の健康づくりや生きがいに、地域や家庭の絆づくりに大いに寄与するものである。市民参加のイベントや祭りが激減するなか、手軽に参加できる「ウォーキング大会」を復活することはできないのか。</p> <p>(2) 2月11日に冠岳でランニング大会が開催された。市外からの交流人口拡大のためにも良い取組と思うが、市民との交流や影響はどのようなか。</p> <p>(3) 過去に元プロ野球選手の野球教室があつたり、合宿誘致にも取り組んでいたが最近は何もない。とても良いことなので積極的に取り組むべきではないか。</p> <p>(4) 市民スポーツ課が無くなったために、本市のスポーツ行政が小さく乏しくなった気がする。国体があり、神村学園の活躍が市民に感動を与えている今こそ、市もしっかりとした体制を整え、市民のためにスポーツの推進を図るべきではないか。スポーツ課の設置は出来ないか伺う。</p>
8	福田 清宏	市長 教育長	<p>1. 交流センターの使用料について</p> <p>(1) いちき串木野市交流センター条例第12条第2項に「前項前段の使用料は、第8条第1項の許可を受けたときに納入しなければならない。ただし、市長がその必要がないと認めたときは、この限りでない」とある。</p> <p>① いちき串木野市社会福祉協議会が、共同募金配分金を通じて福祉活動を推進するために募集する「ひとり暮らし高齢者給食会」を、住民ボランティアが行う場合に、交流センターの利用料は、無料に出来ないか、伺う。</p> <p>2. 道路の改修整備について</p> <p>(1) 串木野西中学校生徒の通学路にある市道野元平江線の歩道の白線が消えているが、どの様に対処するか、伺う。</p> <p>(2) 文京町団地西側（山手側）の道路は、「傾斜があり歩きにくい」との声がある。高齢化社会の一環として、山手側に歩道区域の整備はできないか、伺う。</p> <p>(3) 高齢化社会にあつて路面の改修整備に、すぐ使える予算の確保は出来ないか、伺う。</p> <p>3. 家庭・地域の教育力について</p> <p>(1) いちき串木野市教育振興基本計画の本市教育を取り巻く環境のなかに「家庭や地域における教育力の低下が指摘されている」とあるが、この教育力の向上のために、どの様な取組がなされているか、伺う。</p> <p>(2) 地区子ども育成連絡協議会は、機能しているか、伺う。</p> <p>(3) 各地区まちづくり協議会が、まちづくり防災課の所管である理由について、伺う。</p>